

図書室

下山 華奈

ある日の事です。友だちのほのかと図書室に行きました。わたしはかりたい本があったので急いで図書室に行き、その本のあるコーナーに行きました。

すると、かみの毛の長くて顔が見えない女の人がいて、なにかを言っています。

せが高くて大人の人のようだったので、さい初はじめて入ってきた先生かと思いました。でも中からこの学校の人では、ないと思いはじめました。なぜなら少しだけ顔が見えた時に目が真っ赤だったからです。その時わたしは、急いでほのかの所へ行って

「あんな人学校にいたっけ。」

と聞きました。するとほのかは、とんでもない事を言いはじめたのです。

「あそこには、だれもないでしょ。」

と言われ血の気が引けてきた時です。女の人が苦しみました。

わたしは、かけつけて

「大丈夫ですか!!」

と言うと、すうーと立ち上がり

「ホンチョウダイ〜」

とすごく高い声で言ってきたので自分の本がほしいのかと思いました。

こわくなつて

「はいはいどうぞあげますよ。」

と言い走ってほのかのところに行くところのほのかがいません。どこをさがしても…。

そして、気がつきました。「本ちょうだい」ではなく「ホノカチョウダイ」と言っていたのでした。

どこからか、

「ウフフ」

と高い声がかきこえてきました。